

マアナゴ *Conger myriaster*
伊勢・三河湾小型底びき網漁獲対象 担当：中央水産研究所
[注) 系群ではない]



生物学的特性

- 寿命： 不明
- 成熟開始年齢： 不明
雌雄とも成熟個体が見つかっていない。
- 産卵期・産卵場： 東シナ海等の我が国南方海域が産卵場と推測されているが、産卵期は不明。
- 索餌期・索餌場： 全長約10cmの仔魚（レプトケパルス）が春季に伊勢湾口部に来遊し、変態着底後全長20cmまでは湾内の10m以浅に分布、その後9月から翌年夏季まで湾内全域に拡大し、全長35cm以上になると湾口部、湾外へ移動する
- 食性： 小型の底性生物、エビ類、魚類、軟体類など、成長につれ多様化大型化する
- 捕食者： 不明



レプトケパルスは、春季に沿岸域に来遊し、浅い静穏な海域で変態して着底する。沿岸域に来遊する以前の生態は不明である

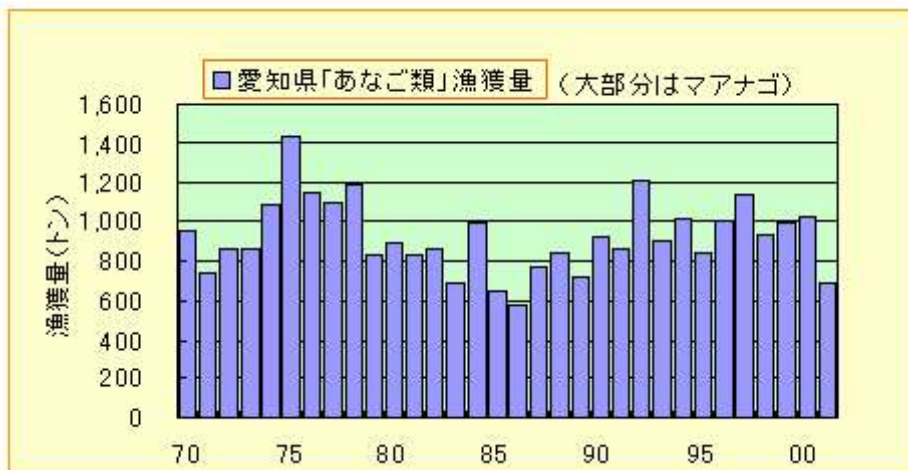
漁業の特徴

伊勢・三河湾における漁獲は、小型底びき網漁業、かご漁業により行われている。伊勢湾の三重県海域での小型底びき網漁業の漁場は、鈴鹿沖、常滑沖を主とした湾奥部と、伊勢沖を主とした湾口部を中心に、伊勢湾全域に形成され、かご漁業の漁場は木曽三川河口域、鈴鹿地区および伊勢湾に面した鳥羽地区地先に形成される。愛知県においては、知多地区の豊浜、日間賀島の2漁協で県全体の3分の1以上を漁獲している。

漁獲の動向

愛知県における漁獲量は1980年代中ごろから増加傾向にあり、1990年代以降は1000トン前後で比較的高位で安定していたが、2001年の速報値では686トンと大きく減少した。三重県では2000年までは、282～420トンの範囲で比較的安定していたが、2001

年は128トンと愛知県同様大きく減少した。

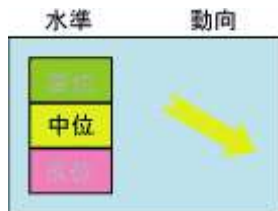


資源評価法

愛知県、三重県の漁獲量の経年変化から現在の資源状態を判断した。

資源状態

近年の漁獲量の経年変化は比較的高位で安定していたが、2001年の漁獲量が大きく減少したことから、資源水準は中位で減少傾向と推定される。



管理方策

漁獲量以外の判断基準がないため、現状では管理目標の設定は困難であり、ABCは算定していない。情報が少なく管理目標を設定できない状態にあるので、生物学的特性、漁獲特性等に関する資料を早急に整える必要がある。管理に関しては、当面は加入してきた資源を有効に利用することを目標とし、たとえば、加入量あたり漁獲量の増大を目的とした、漁獲全長制限等が重要な方策となる。

資源評価のまとめ

- 近年の漁獲量から判断して、伊勢・三河湾のマアナゴ資源は中水準にある

管理方策のまとめ

- 生物学的特性、漁獲特性等に関する資料を早急に整える必要がある
- 加入量あたり漁獲量の増大を目標とした、漁獲物の全長制限等が当面の方策